



オートバックス店舗の木造化による 脱炭素社会実現に向けた取組

オートバックスセブングループ オートバックス・プロパティデベロップメント株式会社

株式会社オートバックス セブンについて

オートバックスセブンは、「社会の交通の安全とお客様の豊かな人生の実現」をパーパス（存在意義）に掲げています。モビリティに関わるさまざまな社会課題の解決に取り組み、人とクルマと環境が調和した、安全・安心でやさしい社会の創造を目指しています。この中で、当社の主力事業としてカー用品の販売をはじめ、車検・整備、板金・塗装などのサービスを提供するカーライフストア「オートバックス」を、全国に約600店舗フランチャイズ展開しています。

木材利用に取り組む きっかけ

「オートバックス」の店舗建築においては、従来鉄骨造が主流でしたが、高力ボルトの入手が困難となった2019年頃に建

築工程の遅延などの影響を受けました。当初は、こうした背景から、鉄骨造に代わる他の工法として木造建築に着目したのですが、検討を進める中で、木造建築はコストや工期の面でのメリットだけではなく、建設時の製造過程におけるCO₂排出量の低減や、木材利用による炭素固定といった環境面での優れた特性を有することが分かりました。さらに、省エネルギー設備と組み合わせたZEB※認証の取得も視野に入れ、本格的な環境配慮型店舗として木造店舗の導入を進める方針としました。

※ Net Zero Energy Building の略称。
快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物

協定に基づいた取組

オートバックスセブンでは、非財務目標の一つとして「環境配慮型店舗の設置によ

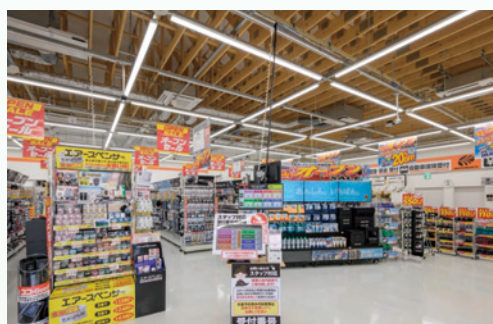
るCO₂の削減」を掲げ、2024年4月にグループ初となる木造店舗「オートバックス佐賀大和インター店」をオープンさせました。同店舗では、

売場の天井は木造トラス材を露出する演出を施し、木造感を生かした設置とし、従来の無機質なイメージとは異なる木のぬくもりを感じられる内装を実現しました。その結果、お客様からも好印象を持っていただけるなどの木造化の効果に分かってきました。

こうした実績を踏まえ、農林水産省が推進する「木材利用（ウッド・チェンジ）促進による、脱炭素



木造店舗の外観（宇部厚南）



木のぬくもりを感じられる木造店舗の内観（宇部厚南）



従来の鉄骨造店舗の内観



協定締結時の記念撮影（左：オートバックスセブン堀井代表取締役社長、右：林野庁青山長官(当時)）

社会・持続可能な社会の実現」の趣旨に賛同し、2024年6月に同省と「オートバックス店舗新築時における建築物木材利用促進協定」を締結しました。本協定では、今後建設する新築店舗のうち10%において木構造を採用するとともに、一定量の国産材を活用することを目標としています。これにより、カーボンニュートラルの実現や、山村の活性化等に寄与するとともに、「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」に基づく合法伐採材木材の利用を推進することで、SDGsへ貢献してまいります。

協定締結後2024年10月には、木造2店舗目となる「オートバックス四国中央店（愛媛県四国中央市）」をオープンし、「ZEB Ready」を取得しました。さらに2025年9月にオープンした木造3店舗目の「オートバックス宇部厚南（山口県宇部市）」ではソーラー発電設備を導入し、「Nearly ZEB」を取得するなど、より環境に配慮した店舗となるよう努力を重ねています。



地元木材を使用した什器（陳列棚）（四国中央店）



建設工事中の木造店舗（四国中央店 建設当時）

我々のような流通業界においては、これらの木造建築とZEBを組み合わせた店舗は、先進的な事例であり、環境配慮型店舗の普及に向けた意義ある取組であると認識しています。なお、国産材の構造用合板を用いた枠組壁工法を採用し、1店舗当たり約100tCO₂以上の炭素を貯蔵できると試算しています。

今後の展望

これまでのところ、木造で建設したのは3店舗であり、木造店舗の出店をさらに加速させていきたい考えである中、現在の情勢により建築費の高騰や資材調達の課題も抱えています。

しかしながら当社が展開している「オートバックス」以外の、複数のストアブランドの店舗においても木造化に挑戦したいと考えています。また、新築に限らず、既存店舗の改装・リニューアルなどに合わせて、内外装の木質による装飾や木製陳列棚の採用などにより木質空間を拡大することで、木の利用範囲も広がっていきます。

今後も木材活用を通じた環境配慮型店舗の推進に継続的に取り組んでまいります。

木造3店舗でZEB認証を取得

